

科目名	教材・授業研究 (3) (表現)
担当教員	檜永 卓三
科目属性	専門科目 A 群
単位数	2 単位 (SC 0.5 単位)
【授業の目的・ねらい】 この学習では、実践的指導力及び教材（題材）開発力を修得し、より高次な教育実践の展開を追究します。そのためには、現状における図画工作及び美術教育に関わる諸問題を捉え、その要因を分析し、解決のための方策について自分なりの考えを明確に持つことが重要です。 この授業で、図画工作及び美術教育の課題を捉え、その解決のための方策を探究するのは、より高次な教育実践の展開を追究するために、小・中学校の図画工作及び美術が教科としての特性を十分生かし、学習指導要領の目標を実現する教育実践がどのようになされているのかを捉える必要があるからです。教科としての目標を達成するための教材（題材）が、学校の年間指導計画に位置付けられ、児童生徒が表現及び鑑賞の活動を行うために適した材料・用具・教育環境が用意され、活動に見合った学習時間や場所が確保されているのか。さらに、児童生徒の発達の特性や課題を捉えた適切な指導・評価がなされているのかなど、実態を明らかにする必要があります。 その上で、実践的指導力及び教材（題材）開発力とは何かを明らかにしなければなりません。さらに、実践的指導力及び教材（題材）開発力を修得する過程を明らかにし、図画工作及び美術教育の諸課題を解決するための自分なりの方策に基づいて、実践的指導力及び教材（題材）開発力を修得するための取組を展開することが大切です。 学修過程においては、事例研究や模擬授業、フィールドワークを通して、常に児童生徒の側に立った指導の成果及び課題について、相互評価を積み重ねることが重要です。また、論文や文献等から先行研究について、その成果と課題を学び自らの研究に生かすことも研究を推進していく上で重要です。 この授業の具体的な到達目標は、以下の3つです。 1. 美術教育全般の諸課題を捉え、解決の方策について考え方の明確化を図る。 2. 事例研究を通して、造形的な創造活動（表現及び鑑賞）を一層促す実践的指導力及び教材（題材）開発力を修得する。 3. 模擬授業を通して、実践的な指導及び教材（題材）開発の内容や方法について相互評価を行い、より高次な教育実践の展開を追究する。	
【授業計画】全ての授業がスクーリングとなります。 評価は、スクーリング内容が50%、科目修得試験50%の割合で総合しての評価となります。ただし、スクーリング内容の評価については、スクーリング1週間前までに提出する必須レポートの内容も含まれます。 全15回の授業計画は、以下の通りです。 第1回 図画工作及び美術教育の諸課題とその要因の把握(学習の目的と見通し) 第2回 図画工作及び美術教育に関わる諸課題の把握(自己の課題を発表) 第3回 図画工作及び美術教育に関わる諸課題の要因の分析(発表に基づいて研究協議) 第4回 図画工作及び美術教育に関わる諸課題の解決の方策の検討 第5回 事例研究を通して実践的な指導の在り方及び教材(題材)の価値についての検討(意義と目的) 第6回 【事例研究1】魅力的な出会い(教材・題材、材料、表現方法、人など)の設定の視点 第7回 【事例研究2】子どもの力を引き出す効果的な場(学習環境)の設定の視点 第8回 【事例研究3】個に応じた共感的な支援(対話や相互鑑賞)の視点 第9回 【事例研究4】「しっかり教え、しっかり引き出す」実践的指導の視点 第10回 【事例研究5】子どもの表現意欲を高める教材(題材)開発と学習展開の視点 第11回 【事例研究6】子どもの表現や鑑賞の能力を高める指導の視点 第12回 教育実践への応用(指導プラン作成) 第13回 模擬授業を通して実践的な指導についての相互評価及び考察 第14回 模擬授業を通して教材(題材)開発の内容、方法についての相互評価及び考察 第15回 授業のまとめ (事後の研究課題設定及び研究計画作成)	

【評価方法】

スクーリングと科目修得試験で評価となります。そのため、スクーリングで学んだことをレポートに落とし込めるよう、まとめていることが望ましい。また、日ごろから「もの」や「ものごと」への関心を深めていること大切。

【教科書】

1. 小学校学習指導要領解説・図画工作科編（日本文教出版株式会社 平成 29 年）
ISBN 978-453659011-2
2. 小学校学習指導要領解説・総則編（東洋館出版社 平成 29 年）ISBN 978-449103461-4

【参考図書】

特になし